湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　専攻科公衆衛生看護学専攻
名　前　大高のぶえ
作成日　2026/4/24

1．教育の責任

湘南医療大学の理念は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」であり、ふれあいグループ統一の理念である。大学はこの理念を基に、保健・医療・福祉・教育のトータルヘルスケアシステムを作り、地域の人々の幸せに役立つスペシャリストを養成することを目的としている。教育部門においては、1）魅力ある学校をつくること、2）学生の成長に貢献する学校をつくること、3）社会に貢献する学校をつくること、以上の3つが期待されている。

【担当科目、担当した内容】

1）地域活動特別演習（必修 2 単位、通年）

・「山手を知る、地域を診る」：専攻科教員、2 専攻合同：8 コマ分
・「知る、伝える、繋がる」：公衆衛生看護専攻教員担当：2 コマ分
・「疫学と歴史からヒトのもつ能力を考える」：2コマ分
・「地域防災の能動的探究」：2 コマ分
・「多職種連携・協働と保健師の専門性」：2コマ分
・「学びの統合、まとめ」：9 コマ分

2）公衆衛生看護活動論 I（必修 2 単位、通年）

・「高齢者保健活動分野」：4 コマ
・「成人保健活動分野」：4 コマ

3）地域アセスメント演習（必修 3 単位、通年） ※科目責任者

・地域診断の概念
・地区診断の展開・実践
・地区踏査計画・実施
・地域包括ケアシステムの構築
・量的データと質的データ
・GIS を使った地域師団
・地区組織活動への支援
・保健事業計画策定・事業評価

4）ヘルスプロモーション演習（必修 3 単位、通年）

・「高齢者保健活動分野」：10 コマ
・「成人保健活動分野」：10 コマ

5）公衆衛生看護マネジメント演習（必修 3 単位、通年）

・「地域活性化への支援」：8 コマ

・「健康イベントのマネジメント」:7 コマ

6）公衆衛生看護学研究（必修 2 単位、通年）
・計画書作成、調査、分析、論文作成:学生 5 名を担当

7）公衆衛生看護学実習Ⅰ（必修 2 単位、後期）
・市町村保健センター、保健所等での実習

8）公衆衛生看護学実習Ⅱ（必修 2 単位、通年）
・産業保健、学校保健、地域包括ケア（地域包括支援センター、地域組織活動）の実習

9）大学祭・専攻科ブースの企画・運営・評価への学生支援

10）国家試験対策全般

2. 私の理念・目的
1）私の理念
（1）専門職としてのアイデンティティを持ち、求められる役割を果たすことのできる人材を育成すること。
（2）困難なことがあっても前向きに考え、自己成長し続けることのできる学生を育成すること。
（3）予測のつかない新しい時代に対応していくため、協調性・柔軟性・広い視野を備えた学生を育成すること。

2）理念をもつに至った背景
公衆衛生看護活動は、その時代ごとの健康課題に対応しながら、アプローチのあり方を変化させてきた。近年は、少子高齢化が一層進む中で健康課題が複雑化しており、保健師に期待される役割もより高度になってきているといえる。
これからの学生は、先行きの見通しにくい新しい時代の中で活躍することが期待されている。そのような未来を担う学生に対し、1）で示した三つの理念を大切にしながら、教育に携わりたいと考えている。

3. 教育の方法・戦略
1）講義の展開
基本的な知識の習得を目的とする授業では、講義形式を採用している。講義の中では、学生の主体的な学修活動を促すため、学生同士で学びを共有する時間やディスカッションの時間を設けている。

2）演習の展開

演習に必要な知識は、事前に習得できるように授業を組み立てているが、演習の前は、再度知識の確認を行っている。グループワークを主としており、演習のマネジメントから取り組めるように組み立ている。

3）実習

実習の場は、行政、産業、地域包括支援センター、学校、住民組織活動の 5 種類がある。それぞれに公衆衛生看護学における特徴的な視点と、共通する視点がある。これらを意識しながら、学生が体験と知識を統合し、保健師としての技術や考え方を獲得できるよう目指している。

4）研究

研究を行うにあたっては、文献検討を通して自分の思いや問題意識を学術的に整理し、可視化することが必要である。この能力は、実践家として活躍するうえでも重要な能力である。

研究活動を通して、倫理的思考力や論理的思考力を培えるよう意識している。学生と丁寧にコミュニケーションをとりながら、「思いや感じたこと」を研究テーマとして捉え、丁寧に分析を進めていく。

4. 学習成果

1）講義による知識の修得

・重点内容について理解が十分でない部分もみられたため、次年度以降の課題としている。
・学生は、実習に必要な知識に基づいて考察することができていた。

2）演習による技術の修得

・保健指導の演習は、産業保健実習においても実践させていただく機会があり、演習と実践が結び付く学びとなった。保健師の指導意図を学修することを目的として、思考プロセスを明確化するため、看護アセスメントから導いた問題について、対象者観・教材観・指導観の視点から考えることができた。
・PDCA サイクルに基づく事業展開については課題があり、次年度以降の検討事項である。

3）実習による知識の統合

・学生は、多職種や他機関との連携、人と人とをつなぐ実際の活動を通して、それに必要な要素を考察することができていた。また、保健師の役割や必要な技術についても考察できており、一部の学生は、自らが目指したい保健師像を描くことができていた。
・実習における学修目標と照らし合わせながら、学びの進捗を確認しつつ、実習指導を行っていく。

4）研究活動による倫理的思考・論理的思考の修得

・興味関心や気になっていることをもとに、研究テーマを設定することができた。

・倫理審査委員会に計画書を提出するために、研究の意義や必要な手続き等について整理し、理解することができた。

・新たな知見を得るために学会へ参加し、学びを深めることができた。

5. 改善のための努力

1）知識の効果的な習得について

・全国保健師教育機関協議会主催のラダーⅠ研修に参加し、教育学総論、授業展開、授業計画の立案について学ぶ機会をいただいた。今後は、自身が行う講義について、授業計画の立案・実施・評価を行い、教育方法のブラッシュアップに努めていく。

2）演習における効果的な思考力・技術の習得について

・領域内において、他職位の教員に相談しながら助言・指導を受け、授業を計画・実施していく。

・学会で情報収集を行い、新たな知見を取り入れながら、自己研鑽に取り組む。

・既存の学修項目や文献等を参考にし、目標設定や評価を行いながら、客観的な評価に努めていく。

6. 今後の目標

1）長期目標

地域で活動することの面白さに気づき、主体的に学修へ取り組むことができること

2）短期目標

学生が達成感や困難感を言語化できること

学生が感じたことの背景を自ら考え、理解できること

公衆衛生看護は、社会のニーズをくみ取り、新たな課題に直面しながらアセスメントを行い、多職種や関係機関、住民、対象者と協働して課題解決に取り組む活動である。

そのため、学生が今後、発展的な思考をもちながら実践家として活動していけるよう、率直な感想や思いを肯定的に受け止め、そこから学生が主体的に学ぶ姿勢を育んでいくことを目標とする。